

(5) 風の息が大きくなっても風塵は発生する。熊谷の1950~52年の23回資料によると、gustのあった日は総数の約1/3の9日、ない場合は14日となっている。資料が少ないのではっきりとはいえないが、風の息が大きいたときは、風塵は広範囲にまた強度も強くなる傾向がある。

むすび (予想について)

以上の調査を要約すると次のとおりで、これによりある程度風塵の発生や規模などについての予想もできるであろう。

(1) 風塵は12月~5月の冬季と春季に発生するとみてよい。2月~4月がもっとも多く発生する。

(2) 土壌の乾燥度の目安は $t=10$ 日についての既往降水指数 P_a であらわすことができる。

(3) 風塵の発生しやすい気圧配置は、はっきりしていても4型に分類できる。

(4) 気圧配置が風塵発生型になり、 P_a が10mm以下の場合、最大風速が内陸平野部で8~10m/s、海岸地域で10~12m/sとなり、3時間以上継続すれば、少なくとも関東地方の内陸平野部では発生すると考えてよい。

(5) 発生時刻は交換現象が盛になる8時~12時と、寒冷前線の通過によるものは、その通過時刻が目安となり、風下の地域になるほどおそい。なお、夕刻にはほとんどやむ。

(6) 風塵の継続時間は3~6時間のことが多い。

(7) 広範囲で強い風塵は、強い季節風の吹き出し、顕著な寒冷前線の通過および発達した低気圧が日本海を通

るときに発生する。そして、土壌の乾燥がいちじるしく (P_a が2mm以下)、最大風速が平均で、15m/s、瞬間で20m/sをこす場合に起る。

(8) 寒冷前線型と4,5月に発生する北西強風型のとときは、 P_a が10~20mm程度で地表面の乾燥がいちじるしくなくても、風速が12~13m/sに達すると発生する。

(9) 北西強風型と南西強風型は、しばしば寒冷前線型と複合してあらわれる。この場合は広範囲にひろがりやすい。

今後は、本部全般についてと、風塵の伝播状況および飛揚高度等について調査をすすめたい。

御指導を頂いた正務調査課長と課員の方々に厚く感謝いたします。(以上)

参 考 文 献

- 1) 丸山栄三, 井芹俊作 (1954): 風塵について 産業気象調査報告 17, 2: 96-99.
- 2) 日下部正雄 (1948): 土壌水分の観測法及び2, 3の観測例について 産業気象調査報告 12, 2: 21.
- 3) 田中貞雄他 (1954): 風蝕防止に関する研究 (1) 土壌含水量と移動開始風速, 農業気象 10, 57-59.
- 4) 山中昭利 (1950): 畑地の土壌乾燥型態 農業気象 6, 1: 18.
- 5) 河村竜馬 (1948): 風による砂の運動, 科学 11, 500.
- 6) 山下一郎 (1941): 砂粒の運動と風速 気象集誌 II, 19, 5: 195.

気 象 の 英 語 (33)

35. street, road, way など

村, 町, 都市の通り, とくに両側に家の並んでいる道を street という。street のうちでもせまい通り, とくに裏通りは, alley といい, 広い立派な通り, 両側に立派なビルディングが並んでいたり, 両側に街路樹のある通りは, avenue と云われる。またとくに立派な街路樹の並んだ美しい通りは boulevard と呼ばれる。しかし, 都市によっては street と avenue を横座標, 縦座標の通りに使って, たとえば南北に走る通りを street, 東西に走る通りを avenue として表わす。

以上の語に対して, road の方は, 離れた地点の間の道, つまり町や村をつなぐ道を指す。同じ道でも, ただ「通り」として見る時は, street といい, 「町と町をつなぐ通り」として見るときは road というのである。だ

から, 「この町の通りはきれいだ」という時の「通り」は street で, 「上野に行く通り」の通りは road である。

これらに対して, way は a path or course leading from one place to another である。つまりかなり抽象的で, 若し島の中を通って行きたければ, それも一つの way である (way には仕方, やり方という意味もあることはご承知のとおり)。竹やぶを突っ切って行くのも一つの way である。したがって, going my way の way の代りに road や street は使えない。また making one's way to は切り開いて進むことで, building a road to は道路を建設することである。

(有住直介)